

# JICA 中国事務所ニュース

(2004年11月号)

## 1. JICA 及び JICA 事業に関する最近のトピック

### (1) 中日友好病院 20 周年記念式典が開催される！

10月23日(土)、北京展覽館報告庁において、中日友好病院設立20周年を記念する式典が中日友好病院の主催により盛大に執り行われました。

祝賀晩餐会には、中国側からは黄潔夫 衛生部副部長、吳忠澤 科学技術部副部長、日本側からは橋本龍太郎 元総理大臣、阿南惟茂 在 中国日本国大使らが出席し、中日友好病院党書記である鄭宏教授の挨拶につづき、JICA を代表して吉永理事より祝辞を述べました。



この中で吉永理事は、同病院に対するこれまでの JICA の協力実績とその成果について言及し、同病院が現在中国において果たしている中核的な役割について触れるとともに、現在のよう  
記念式典祝賀晩餐会に出席する橋本龍太郎氏等要人  
な高水準を誇る病院にまで成長させた中国側関係者のたゆまぬ努力を称え、今後のますますの発展を祈念しました。

晩餐会ののち、会場を同展覽館敷地内の劇場に移して記念式典が開催されました。冒頭の各来賓の祝辞の中で、橋本龍太郎 元総理大臣が当時衛生部長であった錢信忠氏とのやりとりについても披露しつつ、中日友好病院の設立に至るまでの経緯をにこやかに述べられていた様子が大変印象的でした。

その後のコンサートプログラムでは、歌や踊りの上演のほか、中国人民大学青年交響楽団の演奏に合わせて中日友好病院の紹介ビデオが上映されたり、また、著名人が司会者とのトークの中で中日友好病院に寄せる想いを語るなど、随所に工夫を凝らした演出が見られ、これまでの同病院の歩みや、同病院が市民の健康維持に果たしてきた役割がよく分かるプログラムとなっていました。

なお、今回の式典の様子は、同日夜の中国中央電視台(CCTV)で放映されるとともに、10月25日付の健康報(第一面)その他各紙で報じられました。また、コンサートの様子は、鳳凰衛視電視台にて11月第一週に放映される予定です。

中日友好病院は、日本政府の無償資金協力により日中友好のシンボルとして1984年に設立された大型総合病院です。JICA はこれまでプロジェクト方式技術協力、現地国内研修等、さまざまな協力を実施してきましたが、その結果、同病院の診療・教育水準や病院管理技術等は著しく向上し、日本人専門家の派遣による協力が終了した現在も、独自に技術の向上や研究に努めるなど大きな発展を遂げています。特に昨年の SARS 流行時の同病院の活躍ぶりは、記憶にも新しいところです。

今回の来賓挨拶の中に次のような言葉がありました——人間でいえば、20歳は大人として

自覚と責任を持ち、将来に向かって新たなスタートを切る年齢である——。設立20周年という節目の年を迎え、今後中日友好病院に期待される役割もますます広がりを見せています。JICA 中国事務所としても、これまで培ってきた友好関係を大切にしながら、協力を実施していきたいと考えています。

## **(2) 日中友好環境保全センターが第1回 JICA 賞を受賞！**

新生JICAの設立記念日である10月1日に、日中友好環境保全センタープロジェクトが第1回JICA賞を受賞しました。JICA賞は、JICAが実施する全世界の技術協力事業のうち、特に優秀な成果を収めた協力事業を優良案件の例として表彰し、JICA事業推進の模範として国際協力事業の一層の促進に寄与することを目的として、今年から設けられたものです。第1回目の受賞案件は、JICA設立以来全世界で実施されてきた案件の中から選出された21件ですが、日中友好環境保全センターは、日中環境協力の拠点として、日中双方協力の下、数々の環境問題を克服するための土台を長年に亘って築き上げてきた点が評価され、見事受賞に至りました。



JICA 賞の贈呈式に吉永理事と日中友好環境保全センター主任の陳燕平氏

10月22日には、JICA 吉永理事の訪中の機会を利用して、JICA 賞の贈呈式が日中友好環境保全センター1階の大ホールにて開催されました。贈呈式では、まず吉永理事が JICA を代表して挨拶した後、表彰状が、プロジェクト関係者を代表して日中友好環境保全センター主任の陳燕平氏に贈呈されました。同氏からは、これまで本プロジェクトに携わった日中双方の関係者に対して深い感謝の意が示されるとともに、本プロジェクトはオーナーシップの尊重及び人的・組織的能力開発を特徴とし

た JICA 協力の成功事例であり、日中環境協力の窓口・拠点として、高い評価を得ている旨紹介がありました。また、今後とも本センターを日中環境協力の活動拠点とし、引き続き環境問題の解決に積極的に取り組んでいきたいとの決意が表明されました。

この贈呈式は、別途同センターで開催されていた中日環境化学会に続いて実施されたため、総勢約 300 名にも及ぶ日中の環境分野の専門家等関係者の参加を得て開催することができました。日本の国立環境研究所の研究者や本プロジェクトの活動に参画した中国人研究者等、本プロジェクトに直接的・間接的に携わった人々が多数贈呈式に参加し、受賞の喜びを広く分かち合いました。

本プロジェクトの JICA 賞受賞は、全国版英字紙 China Daily 紙の 10 月 23 日版の 2 面「home news」で取り上げられ、受賞に華を添えました。

## **(3) 2004 年度プロジェクトリーダー会議が開催される！**

2004 年 11 月 1 日に当事務所において、「2004 年プロジェクトリーダー会議」が開催されました。同会議には、中国において実施されている技術協力プロジェクトのチーフアドバイザー 15 名と、3 名の個別長期専門家の参加が得られたほか、在中国日本大使館から渥美公使、八尾書記官もご出席いただきました。

会議冒頭、八尾書記官から、プロジェクト現場から積極的に情報発信すること、及び現場で着実に成果を上げていくことの必要性等についてお話頂いたのに続き、チーフアドバイザーと個別長期専門家から各プロジェクトの状況等について説明が行われました。

当事務所からは、(ア)10月1日に開始された在外主管による事業実施体制の試行導入、(イ)プログラム単位の事業運営と中国におけるJICAのプログラムリスト、(ウ)人間の安全保障、(エ)環境社会配慮ガイドライン、(オ)NGOとの連携事業、(カ)機材の現地調達等について説明を行って専門家と質疑応答を行いました。

このうち、「在外主管による事業実施体制」の説明においては、新たな業務実施体制の概要に加え、在外主管による事業実施体制下の本格的な技術協力プロジェクトの第一号案件である「日中林業生態研修センタープロジェクト」を題材に、実際の案件の発掘、形成及び計画策定過程について説明を行いました。専門家等からは、在外主管による案件の発掘、形成等に専門家等による支援の必要性が生じた際に、これに機動的に対応できるよう、必要な調整を行うこと、関係者の知見を十分活用するため、電子ベースの情報共有を進めること、案件の計画策定のみならず、発掘にも積極的に取り組むこと等が提言されました。

また、人間の安全保障については、本部から送付されたビデオを全員で見たうえで、中国事務所としての現時点での取り組み方針と、現場にいる専門家等に期待することについて説明しました。医療、保健分野の専門家からは、人間の安全保障の中で示される考え方や姿勢は、プロジェクトにおいて日常の取組みの中で広げようとしているものと同じ方向であり、確信を強めたとの発言がありました。また当事務所からは、人間の安全保障というコンセプトは、人々の抱える問題とその問題を緩和するための取り組み、また、協力活動が弱い立場にある人々に与える恐れのある影響について考え抜く必要性を問いかけるものである旨述べました。

今回のリーダー会議では、それぞれのテーマで専門家等から有意義な意見や感想が出されましたが、取り扱った内容が多岐に亘ったこともあり、議論を深める時間が十分にありませんでした。今後、案件の形成や実施を進める中で、様々な機会を捉えて議論を深めていく予定です。

#### **(4) 中小企業管理機構研修開講式が開催される！(天津)**

10月31日、天津企業管理研修センターにおいて2004年度現地国内研修「中小企業サービス機構研修」開講式が行われました。開講式には、中国側から科学技術部李健副秘書長や天津市経済委員会薄雲副主任などが、JICAからは加藤次長が出席しました。

天津企業管理研修センターは、JICAが1983年から1991年まで、及び1994年から1996年まで(アフターケア協力)、技術協力プロジェクトを実施し、日本の企業管理制度の紹介と中国人の講師の育成等の協力を実施してきたセンターです。これらの協力により、同センターは中国の企業管理に係る研修基地として発展しており、JICAは同センターと協力して、国有企業改革などの研修も実施してきました。

今回の中小企業サービス機構研修は、前回の2003年度に引き続き、西部地域を中心とした生産力促進センター及び信用担保保証センター等の中小企業への公的サービス機関の人員76名を対象とし、中国及び日本の中小企業政策、信用保証制度、企業診断、品質管理などをテーマとして、11月21日まで実施することになっています。

#### **(5) 2004 年度国別研修「中国公安青年幹部研修」実施！**

警察庁等の協力を得て、今年度実施されることになった国別研修「中国公安青年幹部研修」に参加する公安機関の青年幹部 25 人が、10 月 24 日に日本へ出発しました(11 月 12 日帰国予定)。

近年、中国政府機関の体制改革が急速に推進される中、グローバルな視野と戦略的な思考能力を有する人材の育成は急務となっています。また、「社区(コミュニティ)」との関係など、公安と一般市民との関わり方についても変化の兆しが見られます。そのため中国公安部では毎年全国の公安機関から 25 名程度の中堅幹部を選抜し、将来の局長候補を養成することを目的とした研修プログラムを実施しています。同研修は中国国内研修と海外研修で構成されており、これまで 100 数名の本省及び地方公安庁の中堅幹部をイギリス、フランス、カナダ等に派遣し、先進的な組織構造や管理等について学ばせています。今回の研修は、同じアジアの日本の状況を理解することは非常に参考になるとの考えのもとに要請されたものです。

本研修はコストシェア方式(往復航空賃は中国側負担)により実施されます。訪日研修に参加する研修員は中央及び全国 15 地区の公安中堅幹部で構成されており、訪日期間中、講義、視察等を通じて日本の警察業務及び法律執行の理念やノウハウ、警察と地域社会・住民との結びつきなどについて学び、中国における治安の向上に生かすと共に、日本側関係者との交流を通じ、国際犯罪の防止と取締りのための両国警察の協力関係を強化することが期待されています。

#### **(6) 中央党校訪日研修団が無事帰国！**

中国共産党若手幹部の日本への理解を促進する「中国中央党校訪日研修団」(団長・王偉光中央党校副校長)一行 97 名が 10 月 20 日に訪日し、日本側関係者との意見交換や施設見学などを通じて見聞を深め、10 月 29 日に無事帰国しました。

「共産党中央党校」は同党幹部の研修機関として知られ、1993 年 10 月から 2003 年 10 月まで 10 年間、胡錦濤国家主席が校長を務めていたことでも知られています。今回の訪日研修参加者は同校で長期研修中の中央・地方の政府機関等の若手幹部で、東京での合同研修の後、分野別に別れて兵庫、愛知、福岡、北海道を視察しました。

同研修は 2000 年以来毎年実施され 5 回目となりますが、今年は地方活動において初めてホームビジットが行われました。研修員たちは日本人の日常生活を実体験するとともに、市民との直接交流を通じて日本と日本人に対する理解をより深めることができました。また東京では、9 月に中央党校を訪れた日本側関係者との意見交換会が開かれ、参加者たちは再会を喜びあいながら、日中友好への思いを新たにしました。

#### **(7) 中国初の普通小学校内特殊学級が長春に開設！**

10 月 20 日、吉林省長春市内中心部にある解放大路小学校(牟麗芳校長)に、知的障害を持つ子供のための特殊学級「しいのみクラス」(中国語名は「柯樹籽班」)が開設され、その開校式が盛大に行われました。中国で普通の小学校に知的障害を持つ児童のための特殊学級が出来るのは、これが初めてのケースとなります。

この「しいのみクラス」は、福岡市にあるNPO「九州アジア記者クラブ」と、中国で最初に障害者のために門戸を開いた大学として知られる長春大学の特殊教育学院とが共同で実施す



る JICA 草の根技術協力事業(草の根支援型)「知的障害児教育施設(特殊学級)の設立支援」の活動の場として設置されたものです。

開校式にはこのクラスに最初に入學した6人の児童やその家族をはじめ多数の関係者が参加し、中国障害児教育の新たな門出を祝いました。開校式の後、さっそく授業が行われ、この夏日本で研修を受けた2人の教員がゲームや体操をすると、子供たちは目を輝かせ、お互い顔を見合わせながら先生たちの真似をし、楽しい時間を過ごしていました。



知的障害児に教えている昇地三郎氏(左端)

また本事業の日本側責任者である昇地三郎氏(福岡教育大学名誉教授、社会福祉法人「しいのみ学園」園長)が、障害を持つ子を自ら育てた経験を交えつつクラス設立の目的と今後の運営方針について話し始めると、子供たちの家族からは「新聞広告を何度出してもわが子を教えてくれる人が見つからなかったのに、今こうして学校に通わせることができるなんて信じられない」と涙ぐむ人もいました。

牟麗芳校長の話では、当初、同小学校に知的障害児のための特殊学級を設立する話が持ち上がった際、PTA等から猛反対の声が上がったとのこと。しかし、全国労働模範として表彰された経験を持ち、吉林省の教育界で尊敬を集める同校長や本事業関係者がPTAと何度も話し合いを重ね、障害者への思いやりを持つ子供を育てることこそが本当の人格教育であり、障害児への教育機会の均等化(ノーマライゼーション)にもまた正常児の情操教育にも有益になると説得し、結果、同日の開校に結びついたそうです。

99歳になる昇地氏は「これはまだ中国におけるほんのスタートに過ぎません。中国国内には第2、第3の『しいのみクラス』を待つ子供とその親が大勢います。本事業がモデルケースとなり今後中国全土に拡大するまでは、まだまだ現役でがんばりますよ」と笑顔で語っておられました。

## 2. 調査団の動き等

- ア. 雲南省小江流域総合土砂災害対策及び自然環境修復計画(開発調査・本格調査、3/29-12/15)
- イ. 新疆トルファン盆地における持続的地下水資源利用調査(開発調査・本格調査、5/11-3/12)
- ウ. 水利権制度整備(開発調査・本格調査、8/3-3/10)
- エ. 西部地域中等都市発展戦略策定調査(開発調査・本格調査、10/12-11/30)
- オ. 西部開発金融制度改革調査(開発調査・本格調査、10/25-12/18)
- カ. チベット羊八井地熱資源開発計画調査(開発調査・第5次現地調査、11/4-12/7)
- キ. 太湖水環境修復モデルプロジェクト(技術協力プロジェクト・中間評価、11/21-12/9)
- ク. 四川省森林造成モデル計画(技術協力プロジェクト・終了時評価、11/29-12/10(調整中))

### 3. 今月の行事等

- (1)11月1日-3日 平成16年度プロジェクトリーダー会議
- (2)11月1日-3日 四川省森林造成モデル計画 NGO 会議
- (3)11月5日 住宅性能評定・住宅部品認定制度セミナー
- (4)11月5日-6日 国別研修「技術協力促進」現地オリエンテーション
- (5)11月8日 大型灌漑区節水モデル計画プロジェクト合同委員会
- (6)11月15日-17日 青年招聘第16陣現地オリエンテーション
- (7)11月22日 西部中等都市発展戦略調査セミナー
- (8)11月22日-24日 安徽省プライマリー・ヘルスケア国際セミナー
- (9)11月24日-26日 留学生支援無償総合面接
- (10)11月25日-26日 人工林木材研究計画成果発表会

### 4. 中国の動き

#### (1) 今月の数字

##### 1.2万台

10月28日付け北京晨報によれば、北京市の深刻な大気汚染に対処するため、北京市政府は、年内に老朽化した(排ガス基準に適合していない)タクシー1万2千台を廃車することを目標にすることを発表したとのことです。北京市のタクシーは全体で6万7千台ほどですので、これが実現すれば、そのうちの20%弱が更新されることとなります。その具体的な実施方法は必ずしも明らかではありませんが、車両の廃棄申告基準の厳格な適用や基準の見直し等によるものと考えられます。

ちなみに、北京市は、タクシーに適用される排気量や排ガス等の審査基準の見直しを進めてきており、今後発表される見通しとされています(10月末に公布予定とされていましたが、延期されたようです)。現在予想されている審査基準によれば、北京市のタクシーの大部分を占めている「夏利(シャレード)」「捷達(ジェッタ)」「富康(フーカン)」はいずれも基準を充足しないため姿を消していくものと見られていることから、車両メーカーは非常に高い関心を持って審査基準の発表を待っているようです(10月29日付け The Daily NNA(中国版)、ウェブサイト「中国情報局」10月22日付け記事等を元に上町所員が記述)。

#### (2) トピックス

##### 海賊版ディスクを重点取締り

国務院は、10月18日に北京において開催された「中国・欧州連合(EU)・日本知的財産権シンポジウム」において、今年9月から来年8月までの1年間、北京、江蘇、広東など15省・直轄市・自治区を今回のキャンペーンの重点地区として、全国規模で組織的な知的財産権保護キャンペーンを繰り広げることを発表しました。このキャンペーンでは、海賊版ディスクと商標権侵害を重点的に取り締まることとされており、特に違法ディスクの生産ラインを厳しく調査、処分し、海賊版ディスクを販売する行商人を排除するということです。

北京に住んでいると海賊版ディスクを販売する行商人をあちこちで見かけます。外国人が集まるところには必ず大勢がたむろしていて、三里屯、秀水、友誼商店などを歩くと必ず声を

かけられます。彼らが売り込んでくるDVDは封切り直後の最新のものが多く、値段は1枚が6～8元(90円～100円)くらいです。最新版の映画を缶コーヒーの値段で買ってしまうはやはり異常です。また行商人ばかりでなく、街中にDVD/CDを売る店が存在します。私の住居の1キロ四方でも10軒はあります。値段は1枚10元と行商人よりは若干高めですが、品数は豊富で、最近では日本映画コーナー、韓国映画コーナーを作るなど顧客ニーズに応えるべく工夫を凝らした店が増えています。どこの店も韓国映画コーナーの方が数が豊富であり、日本と同じように中国でも韓国映画ブームのようです。ところで私は北京で海賊版でないDVDやCDを売っている店を見たことがありません。デパートなどでは1枚20～40元と街の店より高めに売っていますが、これが正規のDVDなのでしょう。とてもそうとは思えません。中国の日常生活の中にしっかり染み込んだ海賊版を取り締まるのは容易なことではないでしょう。

技術協力アドバイザー 渡辺 雅人専門家 (10月19日付け人民網ウェブサイト記事参照)

以上